

新潟 公益財団法人雪だるま財団と東京農業大学が 包括連携協定を締結 —雪冷熱を活用した食品の保蔵に関する研究をサポート—

公益財団法人雪だるま財団（理事長：渡辺武敏、所在地：新潟県上越市）と東京農業大学（学長：高野克己、所在地：東京都世田谷区）は、2020年6月1日（月）に包括連携協定を締結いたしました。

公益財団法人雪だるま財団は、再生可能な資源である雪冷熱を活用した「雪室」による食品の保蔵に関する研究をしています。雪室とは、雪の冷気で低温かつ高湿度で安定的な貯蔵環境をつくるものです。電気を要しないため、停電に左右されず、堅牢であるため、自然災害に強い貯蔵庫でもあります。

また、雪室をいかした長期間低温貯蔵を開発しており、今後は医薬品やワクチン貯蔵の可能性を探ります。



雪室の外観（和田雪室）



雪室の中の様子（信濃坂雪室）

東京農業大学は、その特性をいかし、米や痛みやすい果物の長期間低温貯蔵や食味の検証など、研究面から支援をしていきます。さらに、雪深い中山間地域をフィールドとして学生が経験を積むことにより、地域社会の抱える課題を考えられる人材を育成する、まさに本学の教育理念である「実学主義」を具体化していきます。

●本リリースに関する問い合わせ先●

学校法人東京農業大学経営企画部

156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

担当：田中・堀

Tel: 03-5477-2300 / Fax: 03-5477-2707

E-mail: koho@nodai.ac.jp